

新クリーンセンターの建設候補地について

令和 8 年10月

奈良市 環境都市推進部 環境都市推進課

公害調停の締結

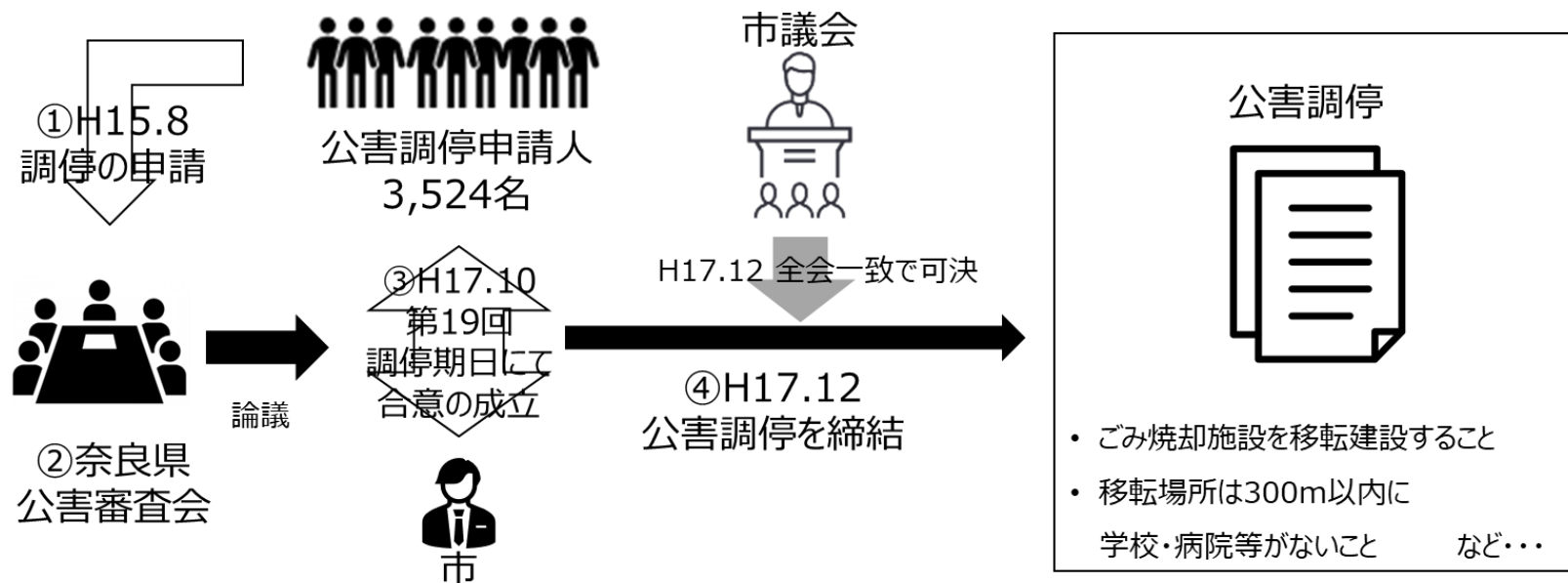
市は、平成17年12月に現工場周辺の住民3,524名と、移転建設を主旨とした公害調停を締結しました。

公害調停とは

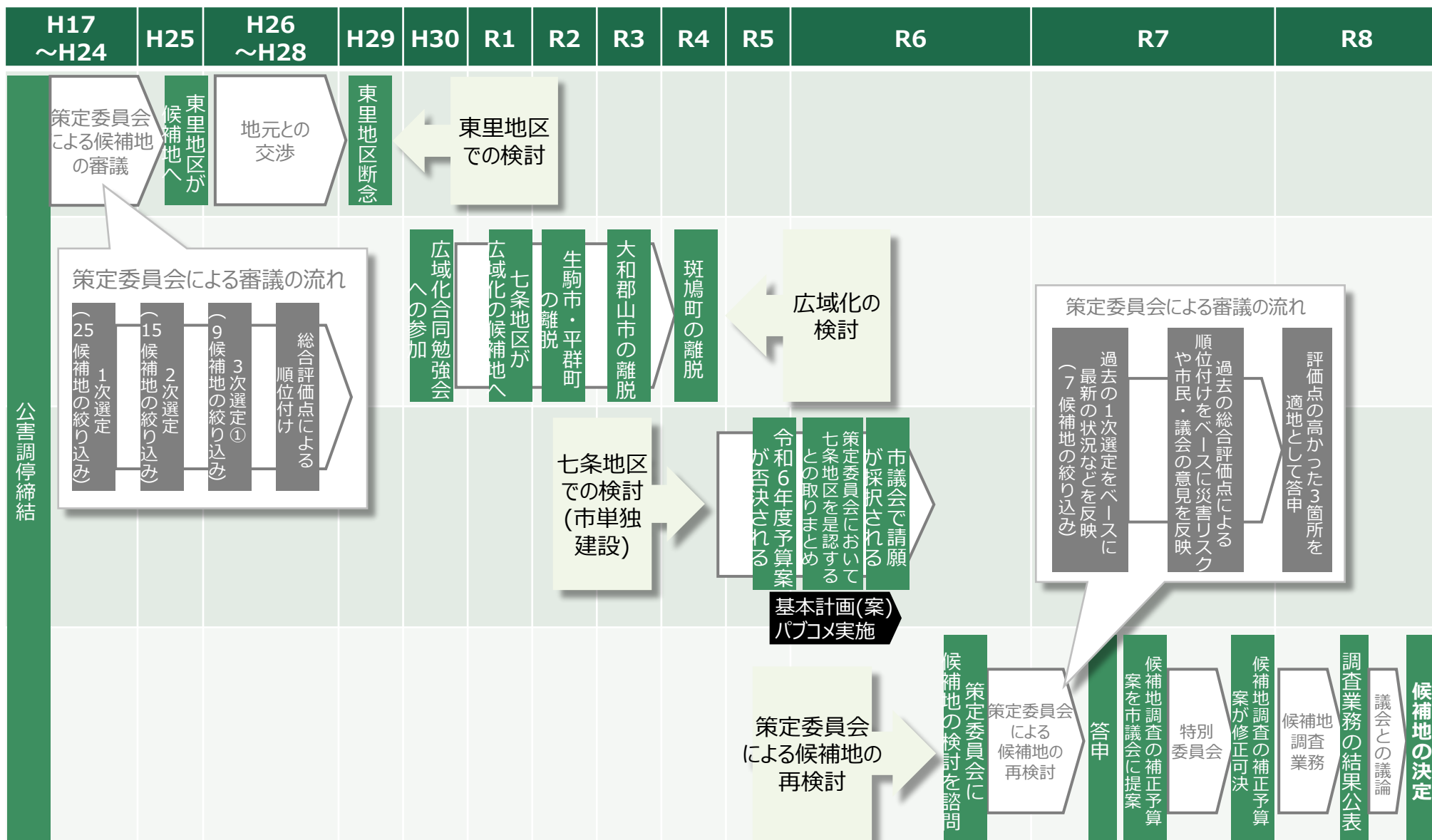
公害紛争処理法に基づき、公害に係る紛争について、調停委員会が当事者の間に入り、双方の合意によって紛争の解決を図る手続きのこと。

公害調停の効力

提示された調停案に当事者間が同意すれば、**民法上の和解**が成立することとなる。調停条項の変更には**3,524名全員の同意**が必要となる。



これまでの候補地選定の経緯



策定委員会における候補地の選定方法の審議

市議会などからの候補地の選定プロセスを見直すべきとの意見を受け、市は令和6年11月、策定委員会に候補地の選定方法について審議いただくよう諮問しました。

STEP1 「選定の条件」による絞り込み

まず、条件1～6により、市全域から候補地を絞り込みを行っていただいた。

候補地の選定の条件	
条件1	10ha程度の空き地を抽出する
条件2	学校、幼稚園、保育園及び病院等の300m以内を除外エリアとする
条件3	自然環境を保全するため、自然公園地域、風致地区、環境保全地区等を除外エリアとする。
条件4	将来にわたって、土地利用が決まっている地区を除外エリアとする
条件5	収集運搬コストが高いエリアを除外エリアとする（現工場比で概ね1.2倍以上）
条件6	新斎苑覚書に記載された小学校区を除く

STEP2 「比較評価基準」による点数付

絞り込まれた候補地に、以下の項目で各候補地に点数付けしていただいた。

候補地の比較評価基準	
住宅の近接状況	施設整備に係る費用及び維持管理・収集運搬に係る費用
道路交通への影響 (周辺道路の混雑度)	廃棄物処分場があることによる影響 (現在及び過去の処分場の立地)
施設配置の制約 (敷地の形状・面積)	土地の所有者数
市民持込の利便性 (収集運搬コストの相対比率)	災害リスク (洪水浸水・砂防・土砂災害・活断層・液状化)
用途指定の状況 (農振地域・保安林・風致地区)	その他住民からの意見及び 請願で指摘された事項 (埋蔵文化財・景観・大和郡山市 清掃センターを含めた景観)
土地利用の現況 (どの程度森林伐採が必要か)	

3候補地への絞り込み

策定委員会は、候補地を7箇所に絞り込んだうえ、比較評価を実施し、令和7年6月、七条町・北之庄町・大和田町の3箇所が適地であると市に答申しました。

基礎評価点(7段階評価)

評価項目			候補地区							満点
大項目	中項目	小項目	候補地1	候補地2	候補地3	候補地4	候補地5	候補地6	候補地7	
			大和田町	七条町	北之庄町	今市町 池田町	山町 柴屋町	川上町 中ノ川町	中ノ川町 東鳴川町	
環境への 影響度	生活環境	住宅の近接状況	2	2	1	1	2	5	3	7
		道路交通への影響	6	6	6	1	5	5	5	7
		施設配置の制約	5	3	3	3	4	3	5	5
		市民持込の利便性	4	5	4	4	3	3	3	5
	自然環境	用途指定の状況	4	7	4	4	2	3	5	7
		土地利用の現況	3	7	7	7	7	2	1	7
経済効率		施設整備にかかる費用 及び維持管理、収集運搬にかかる費用	5	7	5	3	1	2	1	7
		廃棄物処分場があることによる影響	7	7	7	7	7	2	7	7
用地取得の難易度		土地の所有者数	4	1	4	3	3	7	7	7
追加項目		災害リスク	5	4	6	4	4	5	4	7
		その他住民からの意見及び請願で指摘された事項	7	3	5	5	5	2	7	7
全評価項目における基礎評価点の集計			52	52	52	42	43	39	48	73

集計表

評価項目の重み付け			満点
大項目	中項目	小項目	
50	35	15	105
		10	70
		5	25
		5	25
	15	8	56
		7	49
30		25	175
		5	35
5		5	35
10		10	70
5		5	35
計	100	100	680

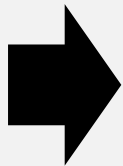
候補地区						
候補地1 大和田町	候補地2 七条町	候補地3 北之庄町	候補地4 今市町 池田町	候補地5 山町 柴屋町	候補地6 川上町 中ノ川町	候補地7 中ノ川町 東鳴川町
30	30	15	15	30	75	45
60	60	60	10	50	50	50
25	15	15	15	20	15	25
20	25	20	20	15	15	15
32	56	32	32	16	24	40
21	49	49	49	49	14	7
125	175	125	75	25	50	25
35	35	35	35	35	10	35
20	5	20	15	15	35	35
50	40	60	40	40	50	40
35	15	25	25	25	10	35
453	505	456	331	320	348	352

市は3候補地から最終候補地を選定するために候補地の調査業務を市議会に提案し、七条町を除く2候補地の補正予算案が可決されました。市は2候補地について調査を実施しました。

候補地調査業務の実施

公表情報から絞り込みや総合評価を行った3候補地の中から、最終候補地を決定するために、より詳細な調査を行うための補正予算案を、令和7年9月定例会において市議会に提案

市議会は、この補正予算案に対して修正提案し、七条町を候補地から除外し減額した補正予算を可決



七条町を除く2候補地で調査業務を実施することとなった。

候補地調査業務の概要

施設配置の検討	各種法規制やごみ搬入ルート、近接する住宅・自然環境・災害リスクへの配慮等の観点から、合理的な施設配置を検討。
概略造成計画の検討	施設配置の検討や地質調査の結果をもとに、施設を建設するために土地を平らに整える「概略造成計画」を検討。
アクセス道路検討	施設配置の検討などの結果をもとに、合理的なアクセスルートを検討し、その整備のための概算費用を算出。
建設費概算見積徴収	施設配置の検討や地質調査の結果をもとに、施設の建設に必要な費用について、プラントメーカーから概算見積を徴収。
地質調査	各候補地の代表地点におけるボーリング調査や、既往の地質調査の結果より、候補地周辺の地質の状況について評価を実施。
交通量調査・推計	周辺道路の交通量や車種等の調査を行い、調査結果や収集車等の通行台数から将来の交通量を推計。

候補地調査業務の結果

調査業務の内容について、以下のとおり取りまとめを行いました。（※懸念事項を赤字で示しています）

	大和田町北側	大和田町南側	北之庄町
道路交通への影響	・朝ピーク時に近傍交差点で渋滞が発生(最大1,450m、14分00秒)。 ・ピーク時の交差点容量は、計算上は余力がある。 ・新施設への代替路がなく、災害や事故時の通行止めによるアクセス困難がリスクとしてある。		・朝ピーク時に近傍交差点で渋滞が発生(最大1,820m、8分35秒)。 ・ピーク時の交差点容量は、計算上は余力がある。 ・幹線道路が複数あり、災害や事故時でもアクセス可能と想定される。
生物の生息状況	・過去の自然環境調査で水生生物等の絶滅危惧種が確認されているが、工事遅延リスクは小さい。 ・建設箇所周辺にオオタカの営巣が確認されており、営巣期の工事中断やモニタリング調査が必要となる可能性が高い。		・地蔵院川が近いため水生生物等の絶滅危惧種が生息している可能性はあるが、工事遅延リスクは小さい。
施設整備費	約528億円	約532億円	約515億円
維持管理・収集運搬費(20年)	約582億円	約582億円	約579億円
液状化対策	既往の地質調査結果を専門家に評価していただいた結果、 液状化対策が必要となる可能性 がある。		ボーリング調査の結果、直下型地震において 液状化対策が必要 となる。
電力インフラ整備	変電所において混雑解消のための変圧器更新（数十億円）が必要となれば、 工事負担金が高額となるリスク がある。		現時点で混雑等の情報は提示されていない。
工事期間の長期化リスク	オオタカ繁殖環境保全のための 工事中断リスクやアクセス道路工事が1年以上必要 となる。	同左のほか、造成規模が大きく全体スケジュールが 遅れる可能性 がある。	工事期間が長期化するリスクは、他候補地に比べて小さい。

候補地調査業務の結果(まとめ)

工期

北之庄町

・目立った
リスクなし

大和田町

・オオタカ営業期
・道路新設期間



交通

北之庄町

・代替路確保

大和田町

・代替路なし



自然環境

北之庄町

・目立った
リスクなし

大和田町

・オオタカ営業
・砂防指定地



費用

北之庄町

約1,094億円

大和田町(北)

約1,110億円



その他

北之庄町

・埋蔵文化財
・液状化
・まちづくり

大和田町

・電力インフラ整備
・液状化(可能性)

調査業務の結果について、市議会において集中的に審議いただきました。主な意見は以下のとおりです。

	大和田町北側	大和田町南側	北之庄町
全般	・ 報告書において、大和田町における工期延長リスクが多く報告をされている。現在の状況を鑑みると、工事にかかる期間は候補地の選定にあたって、非常に重要性の高い項目にならざるをえないと考える。 ・ 工事にかかる費用、運搬コストについて、金額の差は非常に大きい。環境清美工場の大規模修繕は向こう10年間の稼動を見越しているのであれば、候補地の選定において、工期の問題は非常に大事なポイントになると思う。		
道路交通への影響	・ 災害時や事故時に代替路がなく、施設へのアクセスが困難となる。 ・ アクセス道路が1本しかなく、様々な検討を要するなど非常に問題点が多い。 ・ 大和田橋について、右折レーンや信号機がないことから、渋滞が生じることが想定される。 ・ 右折レーンのない大和田橋東詰交差点において、1日150台の車を捌くことができるのか。		・ 国道24号、西九条佐保線、木津横田線という代替ルートがあり、代替ルートがあるということは、防災拠点として非常に重要である。
経済性	—	・ 砂防指定地のため、補強土壁について県協議が必要であり、協議次第では工事費が増大する懸念がある。 ・ 砂防指定地のため、開発をする際に、追加の費用が生じてくると思う。	・ コスト面において北之庄町が有利である。
	・ 概算事業費について、大量の公金を使って行う事業であり、言うまでもなく大きな金額差があると感じた。		
その他	・ 住宅地に近すぎるのでは。 ・ 過去には降り続いた大雨によって、土砂災害が起こっており、北側平地部も、災害リスクが高い場所であると思う。	・ 砂防指定地であり、災害リスクが高い場所を候補地にする必要があるのか。 ・ 森林を伐採することに、法の規制があり、今後の候補地決定にも、重要な課題になるかと思う。	・ 建設に関する不安要素が少なく、京奈和自動車道、J R新駅、西九条佐保線が開通する予定であり、まちづくりのポテンシャルが非常に高いと考える。

候補地選定に関する市の方針

調査報告書の内容、及び議会での議論など、総合的に勘案して、市は、北之庄町を新グリーンセンターの最終候補地として決定しました。

候補地の位置図

